



2013年フィリピン台風Haiyan高潮災害に関する JSCE-PICE合同調査団報告会

まとめと今後の課題

田島芳満 安田誠宏 信岡尚道 川崎浩司
宮本 守 浅野雄司 有川太郎

調査団メンバー



PICE:

- Romeo S. Momo, PICE, DPWH (president)
- Benito M. Pacheco, PICE, UP (overall coordinator)
- Noel M. Ortigas, PICE (water resources specialty group chair, EDCOP, Engineering and Development Corporation of the Philippines)
- Eric Cruz, PICE, UP (coastal engineering)
- Ronwaldo Aquino, PICE, RWDI (typhoon engineering)
- William Mata, PICE, UP (structural engineering)
- Ferdinand Brions, PICE, DPWH(on-site coordinator)

JSCE:

- 田島芳満(団長) 東京大学
- 安田誠宏(副団長) 京都大学
- 川崎浩司 名古屋大学
- 信岡尚道 茨城大学
- 宮本 守 ICHARM土木研究所
- 浅野雄司 オリエンタルコンサルタンツ
- 有川太郎 港湾空港技術研究所
- 伊東 淳 ※先遣隊として12/2~?に調査を実施
オリエンタルコンサルタンツ

第一次調査団の行程



期間: 2013年12月11日～17日

11日 Manila到着. PICEと調査方針, 内容の打ち合わせ

12日 Taclobanに移動. Tacloban港Port Authority Officeにてヒアリング, 浸水高の計測

13日 A:Eastern Samar東岸南部, B:Tacloban東岸北部を調査, 痕跡高, 氾濫・被害状況のヒアリングなど

14日 A:Eastern Samar南岸→San Pedro湾東側海岸,
B:Tacloban北部→San Pedro湾奥部

15日 A:Tacloban南部, B:タクロバン浸水域

16日 A:Tacloban南部～空港, B:タクロバン, パロの浸水域
午後マニラに移動. 夜8時より成果報告会

17日 帰国



Debriefing on Dec.16 (8pm-10pm!)

- JSCEから、現地で得られた浸水高分布や浸水域マップなどの結果を報告。
- 高潮・高波の解析結果についてプレゼン
- 得られたデータを整理し、PICE側から提供してもらいたいデータを確認。(現地での写真やビデオ画像, レーダー測量(実施予定)のデータなど)
- 質疑の後, 今後の方針について議論. 継続的に協力体制を維持し, 必要に応じてfollow up調査を実施.
- 数値解析などを通じたJSCE側からのサポートなど

まとめと今後の課題



- San Pedro湾奥部, 湾口部, Eastern Samar 南岸, さらに太平洋に面したEastern Samar東岸で, 浸水高, 遡上高に大きな違いが見られた.
 - 特に湾口部西側海岸(Leyte東岸), Eastern Samar東岸では浸水高・遡上高を一般的な高潮解析結果では再現できず, 高波による強い影響が推察される.
 - 浸水するまで避難しなかった住民の目撃情報は多く, 浸水高・遡上高に加え, 水位ピーク到達時間, 継続時間などの情報も得られた.
 - 浸水・遡上の痕跡については判別が難しい. →現地でのタガログ語でのインタビューが必須.
-
- 調査結果報告書を英語で取りまとめ, PICEに提出
 - データの一般公開(一部公開済み)
 - 必要に応じたフォローアップ調査の検討



ありがとうございました



2013年12月25日
フィリピン台風Haiyan高潮災害に関する報告会

